



2019年(令和元年)11月度 拡大理事会 議事録

第一部 通常理事会

【日時】 2019年11月16日(土) 9:30 開始 - 12:30

【場所】 八重洲加藤 ふれあい貸し会議室八重洲 No11

【出席者】 会議室 9名 計 9名

(会議室) 川瀬、藤村、奥野、小口、稲葉、森山、義本、太田、土屋監事

【欠席者】 森口、西久保(議決権は会長委任)、植村監事

【審議開始準備】

- ・ 議事進行者、書記、議事確認者を議長より指名 進行者: 森山、書記: 太田、承認者: 森山、小口、川瀬
- ・ 前回までの理事会からの宿題事項確認 … 各審議事項、報告事項の中で対応

【審議事項】(審議希望事項と提議者・部会名を記載のこと)

1. 会員数推移(会員:小口) … Shiryo S1

9月度理事会後 PE180名 PEN64名 FE65名 AF28名 ST10名 合計 347名

11月度理事会後 PE181名 PEN65名 FE64名 AF27名 ST10名 合計 347名

会員数の推移を確認した。以下の意見が出た。

- 新規入会者について、定款では「入会申込者が本会の目的に賛同し、活動および事業に協力できる者と認めるときは」入会を承認するとあるが、新規入会者が勤務先、住所、学歴等を入力されていない場合、定款の要件を検討できない。これに対し、入会申込時に情報の記入が無い場合は会員部会からメールで本人に確認することとしている。
- 海外在住の方から入会可否の問い合わせがあった。居住地による縛りはないため入会は可能。

2. メール大喜利(企画:森山)

メール大喜利として第一弾「PE 制度の歴史ふりかえり」を実施した。その後の実施状況と新規議題について審議した。

以下の意見が出た。メール大喜利の継続とBBSの試行で活動の様子を見ることとした。

- 第一弾を試行したが、あまり活発な議論がなされなかった。
- 新規議題については、多くの会員が関心を持ちそうな議題で実施する。「PE登録」などであればPEN会員は関心を持つ人が多いのではないかと思われる。
- メール大喜利に対して、これまでトピックのリーダー希望やメーリングリストへの参加希望が見られなかった。これは自ら積極的に参加しなければならない。また、登録を必要とせず、会員ページから閲覧可能な議論の形式として、BBSも選択肢として考えられる。
- BBSやメーリングリストでは荒れる可能性があることに留意が必要。
- 実施しながら構築する必要があるが、メール大喜利のサイトには基本ルールも記載している。
- NSPEではBBS書き込みは会員に限定されている。
- 理事以外の人も参加してくれないとなかなか盛り上がらない。
- ファシリテーターの進行方法も議論の盛り上がりに影響すると思われる。

3. セミナー種類ごとの運営方法草案(教育) … Shiryo S3

セミナーの形式について、今後Web配信や録画視聴が検討されていることを踏まえ、セミナー種類ごとの



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

運営方法の草案が教育部会から示された。現在のセミナー開催要領(JSPE03-01, 02, 07)に修正を加えるために草案について審議した。

以下の意見を踏まえ、教育部会で現在のセミナー開催要領の変更案を提出することとした。

1)セミナー運営方法:

- 「確認・お願い事項」は Yes/No のほうがよい。
- 「確認・お願い事項」に会員向けサイトのセミナーアーカイブ等にプレゼン資料をアップロードしてよいかも追加すべき。

2)謝金支払いの目安:

- 「開催助勢者」は記載しなくてもよい。
- 区分を明確化・単純化するため、JSPE Day 基調講演と特別講演の講師謝金は 10,000 円/hr、CPD セミナーと鬼金セミナーの講師は 6,000 円/hr とする。

4. JSPE オフィスアワー新設の提案(企画部会、西久保) …Shiryo S4

会員との交流強化、今後 PE を目指す会員へのサポートの拡充として、週末(土日祝)に 1 時間/日のオフィスアワーを設け、会員であれば zoom または対面で担当の役員に何でも相談できるサービスを提供することが提案された。

以下の意見が出て、会員のみならず、新規入会員も見据えた別の形式でのサービスを検討すべきとの結論に至った。

- 1 名の理事単独では判断できない相談を持ち込まれることも考えられるので、事前に相談の概要を連絡してもらうことが必要。
- 現在、会員・非会員を問わず問い合わせを Web 上で受け付けている。この問い合わせフォームを利用して、会員のみならず、新規入会員を見据えた非会員も含めたサービスを検討してはどうか?
- 問い合わせに対してできるだけ早く第一報としての返事をしてあげることが大事。ただ、例えば 24 時間以内に必ず返事をするといったことは、理事も出張などがあるので、厳守するのは難しい。
- 問い合わせに対し、誰が返事をするのかを指名する人も必要。現状は森山会長がその役割を担っており、問い合わせフォームの分類で各部会が対応するようなルールも作成している。
- 持ち込まれる問い合わせは会員・非会員が JSPE に何を期待されているのかを指し示すものでもある。問い合わせ内容の分析は必要である。
- 理事として、休日に毎月 1 時間程度の時間を確保するのは難しい。また、Web への接続、回答のまとめなどの作業も発生するので 1 時間だけで作業が終わるわけではない。相談内容を議事録にして、理事で共有することも含めると、対応は難しい。
- 問い合わせフォームの活用を一案として、質問箱、情報共有化、FAQ など企画部会にて代替案を検討する。

5. メンター活動状況(会員部会;メンター分会) …Shiryo S5

米国各州へ PE 登録申請を行う際に必要となる Experience Record (実務経験記述書)およびその Record 真正性の裏付けとなる Reference Statement (リファレンス書)には、共通的な作成ルールが NCEES Model Law/Rule で決まっているものの、州によって記載様式や細かな注意事項が微妙に異なっている。

リファレンス書の作成には、申請者と個人的につながりがある複数のリファレンス者の協力が必要となるが、州ボード、申請者の二者からリファレンス者に対して異なる立場からの要請事項があるため、これらを整然かつ遺漏なくリファレンス者に伝えるようにしないと、不完全なリファレンス書が州ボードに却下される、申請者とリファレンス者との間の関係が悪化してしまう、不適正なリファレンスのまま申請者が PE 登録されてしまうなどのリスクを発現させてしまう。

以上を懸念事項として川村前会長からリファレンス様式の JSPE 統一案について提案があり、審議した。



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

以下の意見があり、各州への統一書式よりも JSPE としてのスタンスに重点をおいた検討が必要との共通認識を得た。今後、PE 受験セミナーに「PE としての心構えの教育」を盛り込むなどの活動を検討する。

- 統一案としてはよいと思うが、各州の Experience Record, Reference Statement 様式でリファレンスを依頼する会員も予想されるので、本様式の使用は任意とした方がよい。
- PE 登録助言活動の「参加申込票 兼 記録票」に「エンジニアとしての職務経歴記述下書き票」があり、それと置き換えるなど運用の仕組みに反映が必要。
- 今回提案された様式だと Reference の立場として Applicant の評価を書く欄がない。
- Reference とは、Applicant と過去に上司・同僚・あるいは契約相手方の立場から業務上接点のあった者が記載する「推薦状」であり、「職務経歴記述の裏書 endorsement」ではないと思う。州によっては事務処理の都合で、書式指定されるケースもあるかもしれないが、Applicant が書いた職務履歴にある Professional Performance を具体的に評価し、(許されれば推薦者自らの言葉で)推薦理由を述べる自由度も欲しい。その意味では、提案の統一書式案では不足していると感じる。
- Reference は個人対個人の話であり、JSPE として Applicant を推薦するわけではない。提案のあった様式の使用は任意とすべき。
- Reference の紹介が可能かという問い合わせも過去にあったが、JSPE としては Reference を仲介しないというスタンスをとっている。
- Reference を依頼する側、受ける側が守るべき倫理規定のようなもの(単なる名前貸しはすべきではない、といったこと)が必要と感じる。
- セミナーでの交流や積極的な業務経験アピールなどをしないと人物評価ができない。「PE としての心構えの教育」も含め、JSPE として明文化し FE 会員、PEN 会員を含む全会員と共有する方向で動きたい。その中での任意の書式の一つとすべきではないか。
- Applicant はセミナーでの交流や積極的な業務経験アピールなどをしないと、Reference を頼むにしても適切な人物評価を得られない。「PE としての心構えの教育」も含め、JSPE として明文化し FE 会員、PEN 会員を含む全会員と共有する方向で動きたい。その中での任意の書式の一つとすべきではないか。

上記の統一案とは関係ないが、PE 登録支援活動について次のような状況にある。

1. シラバス英訳支援は、「一からの英訳はしない」としてから依頼が来なくなっている。
2. 学歴評価支援は、申込者にこれまでの実績を「科目名と NCEES CE 結果対比表」として公開することで自己評価を原則としていただくこととしたい。

また、メンター活動は現状、Q&A がメインで継続的なメンタリング活動としては当初意図した状況にはなっていない印象を受ける。

以下の意見が出た。これまでの実績の公開については議論できなかった。

- 一からの英訳はしないという方針で英訳支援の依頼が来なくなっていることは「PE としての心構えの教育」にも通ずるが、JSPE は翻訳会社ではないので、特に問題が無いように思う。また、自分で翻訳をしても登録したいという思いには答えたい。これまでの学歴評価支援の実績の公開については賛同できる。

6. 2020 年 NSPE フィラデルフィア総会での講演検討(企画部会、西久保・森山) …Shiryo S6-1/2 NSPE より 2020 年総会(8/12-16)の講演申し込みが行われている。以下のカテゴリで JSPE の取り組みを紹介することを検討したい。(11/30 申し込み締め切り)

Volunteer Leader and Association Management



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

Best practices for volunteer and staff engagement

State/Chapter best practices

以下の意見が出た。今後の活動で Best Practice を意識すること、2021 年以降の発信を検討することとした。

- 上記講演は毎年行っている 5 分間スピーチに加えての教育セミナーでの講演提案である。
- NSPE 総会における講演はエンジニアリングに関するものが多いと思われるが、州ごとの取り組みを紹介する講演もあるのか？→過去にボランティアの運営方法などがセミナーとして取り扱われたこともあった。
- 以前 NSPE 総会で発表した経緯として、JSPE は西海岸・太平洋地区に入れてもらっていた時期があり、西海岸・太平洋地区で開催される年に講演の打診があった。
- かつて日本での PE 試験受験者は西海岸でしか登録できない時期があったが近年は違うので、今は地区を気にする必要はないと思う。
- Best practices として発表することはハードルが高い
- JSPE も NSPE と同じような(会員数や会員サービス)問題を抱えている状態
- 今後、各州とのイベントなどで Best practices として 紹介できる可能性もあるが、現時点では難しい。申請までの時間もない。

【報告事項】(報告予定事項と提議者・部会名を記載のこと)

1. 学生会員更新方法草案(会員部会)

学生会員は就職等で資格を失った場合に資格変更を移行できるように次のとおりとする。

会員部会にて入会時に大学等への在籍と卒業予定時期の確認と記録を行う。

学生証の提示、研究室のホームページでの所属の確認

会員情報システムの、管理者ノート欄に卒業予定時期を記入する。

2. シニア会員(会員部会) …Shiryo H2

前回理事会のコメントを考慮し、シニア会員案、細則変更案を作成した。(10/5 に配信)特にコメントなかったものでこれの最終版をもって承認をお願いすることとした。

- 最終版の PDF ファイルを会員部会から広報部会に送付。広報部会で公開とメール配信。

3. マガジン冬号の目次案の共有(広報部会、西久保) …Shiryo H3

特集として会長年始挨拶と11月拡大理事会の報告を予定している。新規項目としては以下の通り。また、JSPE 所蔵の書籍など各役員に1件の書籍紹介と、「PEを知ったきっかけ、PEを目指した理由、PE・役員になって良かったこと」の寄稿を協力いただきたいと考えており、対応可否を確認したい。

(1) NCEES トピックスの共有: PE 会員の協力が得られたため連載を再開

(2) NSPE トピックスの共有: 協力者が得られれば連載したいと考えており、役員内での対応可否を確認したい

(3) NSPE 会費状況の共有: 年会費倍増後、一部の会員には2度目の請求が到来している。川村前会長の提案も踏まえ JSPE としての方針・状況を共有すべきと考えており、執行部・渉外部会に原稿作成を協力いただきたい。

(4) 過去マガジン記事の掲載: 会員が JSPE の情報資産を利用しやすくするため、過去マガジンの記事を概要付きで整理している。2020年早々に全記事の整理が完了する予定。



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

4. 関西 YEP の開催連絡(企画部会、西久保) …Shiryō H4

12/7 の鬼金セミナー後に移動し、17:00-20:00 で開催する。JSPE からの補助は一人当たり 2,000 円とし、参加者の自己負担は 3,000 円。会場予約の関係上、関西理事の参加確認を行いたい。

5. イベント実施・計画報告(教育部会)

鬼金セミナーの講師の決定が、セミナー実施直前までに決まらなかったが、セミナーを通じて、鬼金セミナーの講師条件の PE&PMP の方が数名わかり、来年度は若干状況が改善する見込みである。今後打診の上、鬼金分会への参加(rep@へのメールアドレス登録)をお願いする。

6. その他報告事項(事務局、森山) …Shiryō H6

機械学会への「米国 PE 制度紹介」投稿状況、JABEE 動向、技術士会動向(川村前会長より) 事務所 Mixer の移転時期と場所はまだ決まっていない。

第二部 拡大理事会

【日時】 2019 年 11 月 16 日(土) 13:30 開始 - 16:30

【場所】 八重洲加藤 ふれあい貸し会議室八重洲 No11

【出席者】 会議室 10 名 計 10 名

(会議室) 川瀬、藤村、奥野、小口、稲葉、森山、義本、太田、植村監事、土屋監事

【欠席者】 森口、西久保(議決権は会長委任)

【審議事項】(審議希望事項と提議者・部会名を記載のこと)

1. JSPE マガジンの企画(1 年程度の長期案)(広報部会) …Shiryō EX1

新企画として、毎年 1 テーマに絞ったトピックスを連載したいと考えている。第 1 弾として 2020 年は、先日の JSPE day で取り上げた IPCC の第 5 次報告書(AR5)を取り上げたい。

以下の議論を行い、実施することとした。

- トピックスは報告書を要約した内容とするのか？
→単なる要約ではなく、エンジニアとしてどのような関与ができるかといった観点を盛り込むべきと考えている。
- 理事だけでやるのではなく会員からも参加を募集するのがよいと思う。
→2020 年 1 月号では概要を記事とし、検討参加者も募る文章を入れる。
- 第 5 次だけを取り上げるのではなく、第 1 次からの変遷も振り返るとよいと思う。

2. 予算進捗状況の中間報告(会計部会) …Shiryō EX2

9 月末までの予算進捗状況をまとめた。委託税理士へ依頼の「残高試算表」、「総勘定元帳」の入手は 11 月 20 日以降となる、

全体予算と実績について暫定のデータを共有し、以下の議論を行った。

- 9 月末までの会計報告は税理士へ送付済み。
- 年会費未納金額は現時点で年度当初見込みの 2 割程度。
- 11/20 以降に税理士から送付いただく報告を共有し、再度各部会で入力することによって予実表を作成する。
- 近々、在京の担当奥野理事と税理士との面談を持ち、経理関連データに関する担当理事との授受やデータ処理量やデータサイクルに関して打合せの機会を持つ。その際には、土屋監事も同席する。



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

3. 各部会の予算の消化状況と下期計画 …Shiryo EX2

各部会より上期の予算の消化状況と下期の計画をそれぞれ報告した。主なトピックスは次の通り。

【会計部会】

- 概ね予算通り。

【会員部会】

- PE/FE 登録セミナーは会員部会の管轄だが、関東は会員部会員が居ないため教育部会が協力する。

【教育・企画部会】

- 特に東京会場費の増加によるセミナーやサロンの単独収支悪化への対策について、参加費や経費の検討を教育部会で検討する。
- かつてセミナー参加費は現在の額よりも高かった。また、他団体の PMP 向け PDU 供給セミナーに比べると現在の鬼金セミナー参加費ははかり安い。セミナー参加費は値上げを検討してもよいと思う。
- NSPE では会員に 15 CPD/year 分の講習無料受講権が与えられる。無料受講枠の創設を検討してもよいのではないかと。→新規入会者に対する 1 CPD 分の無料受講権の付与制度はある。まずは収支悪化対策を検討したい。

その他以下の意見があった。

- 企画部会と教育部会の予算が企画教育として一緒になっているのはなぜか？
→鬼金セミナーは当初新企画であったときは企画部会の管轄であったが、長期間実施しており、近年は教育部会も運営に参加しており、一体で運営していると捉えているため。
- イベントごとに責任部会を定め、会計報告を行ったほうがよい。
- 総会の参加費、総会の講師謝金など事務局と教育部会の所掌が混在している点も認められ、次期予算組時の課題として認識した。

4. 各部会の下期および来年度運営方針案(活動内容) …Shiryo EX3

【会計部会】

以下会計報告の運用について共通認識とした。

- 三菱 UFJ 銀行の通帳管理は小口理事、ゆうちょ銀行の通帳管理は川瀬理事が担当する。
- 各役員および各部会の会計報告の原本は月ごとに奥野理事に郵送する。数ヶ月分をまとめて郵送しないこと。
- 会計報告郵送の郵便費は奥野理事が切手の額を見て各会計報告に加算するので、各個人の会計報告には入れないこと。
- 貸会議室の貸主などの業者への振込が必要な場合は会計部会のメールアドレス宛てに請求書を送付する。振込は原則、会計部会にて行うが、会計部会担当者の都合が悪い時には、イベント担当者が支払いを立替え、後日、イベント会計報告で奥野理事へ報告する。

他の部会の方針についても報告に間に合わない部分があったため、上記予実表の作成とともに早めに作成し、理事会内で共有化すること。

5. 長期課題について議論 …Shiryo EX3 “JSPE2019 参照”

以下の議論が行われ、会員からのアンケートによる情報収集、問い合わせ内容のまとめ、問い合わせフォームの有効活用を図り、JSPE の活動の方向性について継続議論することとした。

- 既存の活動で不要なものは特に無いと思われる。活動内容が増える一方で理事の数は増やしていない。理事一人あたりの負担が増えるため、理事以外の会員(部会員)による協力が必要。
- 新規入会者の中には部会員のシステムを知らない者も多いと思われるので、PR が必要。
- 運営に協力してくれた部会員に CPD を供給することを検討してもよい。これは準備ができており、JSPE マガジンへの寄稿など明文化および実施されているものもある。






特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

- 運営に協力してくれる部会員やボランティアを募集したりする前に、JSPE とは何をする団体なのかを打ち出す必要がある。JSPE の目的や目標、方向性といったことを明らかにしたほうがよい。
- 日本に居るエンジニアが PE 資格を取得、維持する意味は何かということについて、JPEC も同じことを思索していると思う。
- JPEC は PE 資格取得の入口である PE 試験・FE 試験を管理しており、JSPE は資格を取得した後の継続教育を行っている。JPEC からは NCEES 総会の報告、JSPE からは NSPE 総会の報告をするなどの交流から再開したらどうか。
- JSPE としても交流を拒否する理由はない。
- 他団体との交流については上記方向性の検討を踏まえた継続議論が必要。
- 2月意見交換会でも話題とした「累積剰余金の有効利用」を長期課題として明記し、担当者および今後の議論のガイド役を設定する。
- 出版企画はどうなったのか？→岸本先生に協力する形で川村前会長が進めている。森山会長も 12 月に行われる IMeche のイベント参加を含めて岸本先生とコンタクトを取り、進めていく。

【次回理事会予定】 2020年1月18日(土) 9:30~

【議事承認印】

承認	森山 亮 
承認	川瀬 達郎 
承認	小口 力 
書記	太田 量介 